

# TLIFES を活かす思い出共有サービスの提案

100430029 加藤哲  
川澄研究室

## 1. はじめに

超高齢化社会を見据え、スマートフォン(以下スマホ)とモバイルネットワークを使った生活支援システム TLIFES(Total LIFE Support system)の研究に取り組んでいる[1]。TLIFES はユーザ全員がスマホを持ち歩くことを前提としているが、特に高齢者のための魅力づくりは大きな課題である。本稿では、TLIFES の蓄積情報を活かしながら地域住民間のコミュニケーションを促進・支援する、スマホを使ったサービスの1つの在り方を提案する。

## 2. 思い出共有サービスの概要

家族や友人たちと交流を深めるきっかけを提供する思い出共有サービスを提案する。このサービスでは、写真やコメントで構成される思い出情報を、モバイルネットワークを通して TLIFES サーバに蓄積する(図1)。蓄積された思い出情報は、ユーザが予め設定した共有者情報に従い自動的に共有され、ユーザと共有者が自由に閲覧できる(図2)。写真の入力にはスマホ搭載のカメラを用い、コメントは文字に加えて音声でも手軽に入力できる。なお、写真やコメントはユーザ自身がサーバへの登録可否をその都度判断できる。スマホ上での思い出情報の表示例を図3に示す。高齢者にも見やすいよう大きな文字でシンプルな画面構成になるよう留意して作成した[2]。

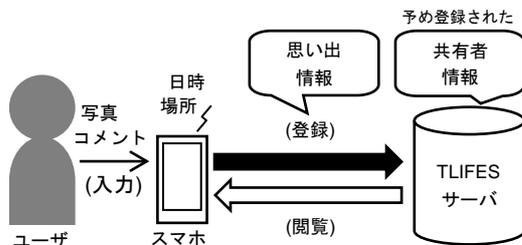


図1 思い出情報の登録と閲覧

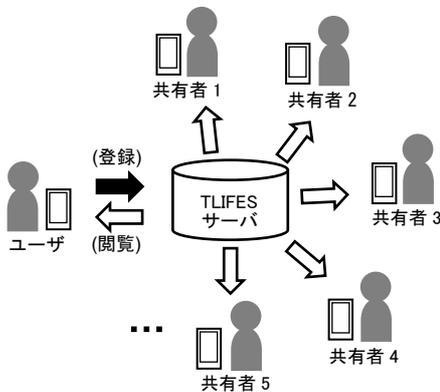


図2 思い出情報共有の流れ

## 3. シルバー人材センターでのヒヤリング

長久手市シルバー人材センターにて、61～84歳のアクティブシニア(外出や日常生活を積極的に楽しむ高齢者)30名に協力していただき、本サービスについてのヒヤリング調査を行った。主な結果を図4に示す。サービスに魅力を感じた人は50%以上、交流支援に役立つと感じた人は40%強、スマホを持つ決め手になると答えた人は40%弱で、概ね前向きな印象をもっていた。また、思い出を残す媒体としては、提案した写真・文字・音声が良いことが確認できた。

## 4. まとめ

「使ってみたい」「楽しそうだ」という声が多く得られ、こうしたサービスがスマホを持ち歩く魅力になることを確認できた。一方で、思い出の場所へのナビゲーション機能や思い出の内容に応じて共有者設定する機能への需要など、改良すべき点も明らかになった。今後は、他のTLIFES蓄積情報(脳トレ成績や運転情報など)を活かした新しい機能を思い出共有サービスに追加していきたい。

## 参考文献

- [1] 大野雄基ら：弱者を遠隔地から見守るシステム TLIFES の提案と実装、情報処理学会研究報告、2012-CDS-3.No.2,pp.1-8(2012)
- [2] 浅川智恵子：アクセシビリティ向上のための情報技術とユニバーサルデザイン、情報の科学と技術、Vol.62,No.5,pp.192-197(2012)



図3 思い出情報の表示例

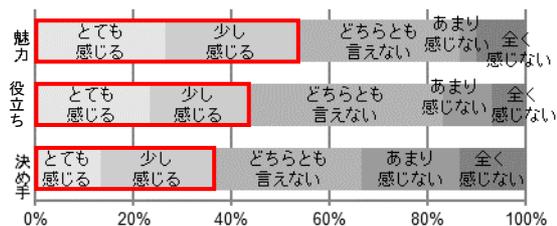


図4 シルバー人材センターでの評価結果